

周国明 周鑫译著

日语阅读

日汉对照系列读物

1

精选



天津大学出版社
TIANJIN UNIVERSITY PRESS

日汉对照系列读物

日语阅读精进①

周国明 周鑫 著

天津大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语阅读精选.1/周国明译著.天津:天津大学出版社,2003.5
ISBN 7-5618-1754-1

I. 日… II. 周… III. 日语 - 阅读教学 - 自学参考
资料 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 027447 号

出版发行 天津大学出版社
出版人 杨风和
地址 天津市卫津路 92 号天津大学内(邮编:300072)
网址 www.tdcbs.com
电话 营销部:022-27403647 邮购部:022-27402742
印 刷 河北省昌黎县人民胶印厂
经 销 全国各地新华书店
开 本 110mm×185mm
印 张 11.5
字 数 221 千
版 次 2003 年 5 月第 1 版
印 次 2003 年 5 月第 1 次
印 数 1 - 4 000
定 价 75.00 元(全五册)

序

要想提高日语阅读能力，最好的办法是多读文章、快读文章、读不同体裁的文章。

这一套《日汉对照阅读丛书》就是针对日语学习者提高阅读能力而编写的教材。

本丛书主要供学习日语的读者作自学用书，但是也可以作为课堂教学的教材。

本丛书挑选了政治、经济、历史、文化、地理、气候、风土人情、名胜古迹、日本童话、外国故事、中国故事、神话故事、寓言及日语语言、科普方面的文章。题材广泛，篇目很多。

阅读本丛书既能大大提高日语阅读能力和兴趣，还能获取大量的知识和信息。

为了方便读者，我们将文章译成中文，列出词汇表，每一个生词标有词性及词义。

对语法现象采取汉语释义的方法，以求读者记得住。

由于经验不足，水平有限，丛书中难免有错误和疏漏之处，敬请同行专家、学者及广大读者不吝赐教。

编者

2003.1.

日语阅读精选①

6. 人類文化のあけぼの (78)
 词汇 (83)
 语法难点注释 (87)
 译文:人类文化的曙光 (89)
7. 日本の憲法 ^{けんぽう} (93)
 词汇 (99)
 语法难点注释 (103)
 译文:日本的宪法 (105)
8. 正倉院とシルクロード (110)
 词汇 (115)
 语法难点注释 (121)
 译文:正仓院与丝绸之路 (124)
9. 経験をまとめると (128)
 词汇 (134)
 语法难点注释 (138)
 译文:总结经验 (141)
10. 個個的に生きる (145)
 词汇 (149)
 语法难点注释 (154)
 译文:活著要有个性 (156)
11. 言葉の魔術 (159)
 词汇 (164)
 语法难点注释 (169)
 译文:语言的魔术 (171)
12. 時候のあいさつ (175)

目 录

词汇	(179)
语法难点注释	(183)
译文:季节的问候	(186)
13.近代文明と砂漠化現象	(190)
词汇	(193)
语法难点注释	(199)
译文:近代文明与沙漠化现象	(201)
14.エイズの発見	(204)
词汇	(207)
语法难点注释	(213)
译文:艾滋病的发现	(214)
15.創造性の尊重	(217)
词汇	(221)
语法难点注释	(226)
译文:创造性的尊重	(229)
16.男女の交際について	(233)
词汇	(236)
语法难点注释	(237)
译文:关于男女的交际	(241)
17.故事から生まれた言葉	(244)
词汇	(246)
语法难点注释	(248)
译文:从故事中诞生出的词语	(251)
18.『絵のない絵本』を読むまえに	(253)
词汇	(258)

目 录

译文:有 837 万外国移民的日本	(342)
25. 乱読から批判的読み方へ	(346)
词汇	(348)
语法难点注释	(352)
译文:从滥读到批判性地读	(355)

1. 季節感

はやましげる
葉山 茂

日本には四つの季節があります。

四つの季節に従って自然の景色も変化を見せます。富士の姿が変わり、春は桜が、秋には紅葉が、目を楽しませてくれます。一年のあいだを四つの季節がゆっくりうつろっていくというこの繊細な変化に応じて、私たちには季節感というものが身についています。

歴史的にも季節に結びついた文化が発展してきたのです。なにより和歌・俳句がそうです。絵、陶・漆器、着物、からかみ、ぴょうふ、欄間などに自然が写されています。庭造りや建築もそうです。そのようなものを生み出してきたのは、日本に四季があり、日本人に季節感があるからです。季節によって生業も左右されてくるし、季節と人間の生活や文化とのあいだには実に密接に関係があることが分かります。

けれども私たちは、こういうことをふだんはあまり考えません。私がマレーシアにいたとき、ペナンの図書館で、一人の色白の中国人系の青年が、冷房の効いた貴重図書の部屋にいる私のところに来て、「日本には四つの季節があるんですね。」と言いましたから、「そうですよ、春、夏、秋、冬とあるのです。」と答えました。「いい

ですね、ここはいつも同じ。」と言って、情けないような顔をして見せました。

そのとき私は、月並みなことですが、「そうだ、季節的変化のあるなしの生み出す違いは大きいぞ。」と思うのでした。日本では右に述べたとおりです。マレーシアとかシンガポールとかでは赤道近くですけれども、思ったほど暑くはないのです。日中の約三時間、かつと暑くなつて、どうしても昼寝がしたくなりますが、夕方になると案外涼しくなり、月夜の夕涼みなどは爽快なもので。

一年をとてみると、雨期と乾期があり、ある種の木には葉が落ちる時期もありますから、季節が全くないとは言い切れないけれども、日本のようなバランスのとれた四季はないのです。年がら年じゅう暑い日だけが続いているのです。しかし、一日をとてみると、右に言いましたように、暑いときと涼しいときとがあります。涼風に吹かれながら星空を仰ぎ見るあのときの気分、これは日本ではとうてい味わえません。かつと暑かった日中の後だけに身にしみて涼しさがたまらないのです。

星空の美、これはすばらしいものです。ある夜半、小用のため起きて外に出ました。青田のそばでした。このとき仰ぎ見た星空の美しさには、私はあつと驚きました。だれもいないところで自然に出てくる感激の独り

1. 季節感

言というのを、このとき初めて経験しました。

「きれいだなあ、すばらしいなあ、しばらくここにいようか。」

こんなことを言って、草の上にあおむけになりました。赤みを帯びた星、黄金の星、紫色の星、それに緑色の星、こんなに違った色の星が輝くとは夢想もしなかったことで、その夜半は格別だったかもしれません。空気が非常に澄んで、そしていま一つの驚きは、星が多いことです。星のない空間を、真上を中心としたその辺りに探し出すことはできないのです。注意して見ると、ないと思うところにやはり無数に極小の星があるのです。空の奥の奥という感じのところです。天空の垂れ下がった端のようなところには星はあまり見えないのでですが、まっすぐの上方には無数の宝石が光を放っているのでした。長く居すぎて、少しひえびえとなつて家の中に入りました。

マレーシアの夜は涼しく美しいが、日中はまるで違うなあと思いながら、いつしか寝てしまいました。やがて朝になり、起きたときには、ほんとに違う世界の中にいるのでした。

季節感が身についた私などには、やはりマレーシアの終わりを知らない暑さはどうもおもしろくありません。汗の出方が少なくなっているほど、生理面で私たちと違っているマレーシアの人は、この暑さには慣れてい

るのです。「日本は四季があつてよいな。」と言った人もいますが、四季を経験したことのない人が、そう言ったからといって、マレーシアの暑さにうんざりしているわけでもないでしょう。「今日はひどく暑い。」と、もちろんときにはマレーシアの人は口に出して言いますが、私たちとは違つて、やはり暑さには慣れていると思いまます。

それで、次のようなことがあるのだと思います。「暑い！」よりは「寒い！」と言うほうが多いように思われることです。暑いのがふつうですから、それが急に涼しくなると、「寒い！」と言うのです。彼らには、寒い、涼しいに当たる別別の語はありません。「暑いですね。」「寒いですね。」と言い交わす習慣もありません。ですから、気温が下がって、私たちなら「涼しいですね。」と言い合うところを、彼らは「おお寒い。」と私語するのです。

「暑いですね。」「寒いですね。」と私たちのあいだで言い交わす習慣があるのは、第一はやはり季節感のためでしょし、いま一つ考えられるのは対人意識でしょう。「暑いですね。」(だから上着を脱ぎなさいよ)「寒いですね。」(だからどうぞお気をつけて)というぐあいの、なにか相手を思いやるニュアンスを表すということでしょう。集団的傾向の強い日本人における対人意識には微妙なものがあつて、いっしょに出会う相手に黙つていることのできない心がます季節感をくすぐつて、そ

